

父母の思い、大学の熱意が伝わった

教育後援会が主催する地区懇談会が11月19日(日)に行われた。大学と父母の交流の場に、と昨年東北地区で第1回の懇談会がもたれ好評だったため、今年は北陸地区を加えて2カ所で同時開催となった。両会場には約90名の父母が参加。大学側からも大東学長はじめたくさんの教職員が参加して、和やかな中にも有意義な懇談会となつた。



北陸地区懇談会で挨拶する大東学長

参加者の声

■地区懇談会に参加した印象について

- 大変わかりやすくよかった
- 参考になった
- 大学内の様子がわかった
- 各学部の教員との個別面談がよかった
- 学校、先生の話を聞いて有意義
- 参加してよかった
- 学校のことを少しでも知りたいから出席した
- 学校や先生方に親しみがわいた
- 大勢の職員が参加して、大学の意気込みが感じられた
- 昨年とても和やかな会だったので今年も参加した
- 就職の厳しさを感じた
- なごやかに会話ができる
- 地方にいる親としてありがたい
- 学科別に交流ができるよかったです
- 初めてなのでよくわからない
- もっとこういう機会を増やしてほしい

■今後の教育後援会に期待することは?

- 今後も地区懇談会を開催してほしい、回数を増やして
- 期待しています
- もっと大勢の方の出席を望みます
- 活動状況を知りたい
- 学生と親元の連携に助力してほしい
- 父母の声が届くような後援会を希望します
- 学生の諸活動の支援
- 個人面談、就職相談を充実してほしい

■大学に関しての要望は?

- 就職先の開拓と強力なバックアップをお願いしたい
- 親と大学との情報を密に(学校の行事や、学校内での生活状況などを教えてほしい)
- 資格を取るための講座を積極的にすすめてほしい
- 大学院を作ってほしい
- 大学をもっとPRしてほしい
- 大学のレベルの向上を目指してほしい
- 図書館の充実、学生の自治活動の育成
- サークル活動を活発に
- 最後の入試はあまり遅くない方がいいと思う
- 夢を与えてほしい
- 資格試験の出欠等の情報がほしい
- 学力偏重にならないよう、人間教育を希望

東北地区懇談会は福島県郡山市の「郡山ビューホテル」で開催された。大学側から宇田川璋仁経済学部長、鈴木進外国語学部長成瀬隆教務部長、小島久代中国語学科主任、小泉允園不動産学科主任、伊藤文夫教授、樋口清秀助教授、渡辺鉄太講師、櫻井隆講師、足立卓三事務局長、天野貞雄第二部事務課長、近江彰学生課長らが、教育後援会からは川口一郎副会長、大竹キヌ子幹事、小林由美子幹事、白石雅章名誉会員が出席。52名の地区会員が参加した。

一方、北陸地区懇談会は新潟市内の割烹の宿「湖畔」で開催された。大学か

ら大東百合子学長、石原舜介不動産学部長、藤本一美学生部長、三田昌克浦安キャンパス事務部長、地下

の担当教員らが。教育後援

会からは貝原和年副会長、柳田雅子幹事、野田雅子幹事、中島嶺子幹事、教育後援会評議員松井三男さんらの参加は35名。

北陸地区的懇談会では、

まず、貝原教育後援会副会長が、「私たち父兄は、遠く離れた大学で子どもたちがどういう生活をしているのか、ほとんどわからないのが現実。今日は直接先生方から話を聞いて、どんな環境で開催された。大学か

ら大東百合子学長、石原舜介不動産学部長、藤本一美学生部長、三田昌克浦安キャンパス事務部長、地下

の担当教員らが。教育後援

会からは貝原和年副会長、柳田雅子幹事、野田雅子幹事、中島嶺子幹事、教育後援会評議員松井三男さんらの参加は35名。

北陸地区的懇談会では、

まず、貝原教育後援会副会長が、「私たち父兄は、遠く離れた大学で子どもたちがどう生きるかを学んでほしい」と教育方針について話した。そして藤本学生部長が7月31日から3日間にわたりて行われた「リーダース研修会」や清里で行われた「留学生の集い」、11月3日から5日に開催された「明海祭」など、学校行事について報告。また、学生のサークル活動についてもふれ、テニス部、サッカー部、ラグビー部、ヨット部、陸上部が優秀な成績を残していると発表した。

東北地区懇談会では、

まず、貝原教育後援会副会長が、「私たち父兄は、遠く離れた大学で子どもたちがどう生きるかを学んでほしい」と教育方針について話した。そして藤本学生部長が7月31日から3日間にわたりて行われた「リーダース研修会」や清里で行われた「留学生の集い」、11月3日から5日に開催された「明海祭」など、学校行事について報告。また、学生のサークル活動についてもふれ、テニス部、サッカー部、ラグビー部、ヨット部、陸上部が優秀な成績を残していると発表した。

北陸地区的懇談会では、



クローズアップ

学生部長 藤本一美教授



1944年生まれ。明治大学大学院博士課程終了、国立国会図書館調査員を経て明海大学不動産学部教授に。政治学、特にアメリカ政治が専門。

学生との交流の場を主催するなど仕事を日々。時には学生が起こした事故やけんかの処理で外部との折衝にあることもある。

学生が生活しやすいように心を配る毎日だが、

必要もある」と話す。

ご自身は大学も大学院も

補欠入学。高校は2回停学

になったといふ華々しい

(?) 経歴の持ち主。努力

家で、けしてエリート街道を歩いてきたわけではない

「今日でできることは明日にと心を配ること」はモットー。趣味はダイビング。

堂々と要求を主張したい

い。学校だって正しい意

見は受け入れるはず」と

はつぱをかける。

「延ばすな」がモットー。趣

味はダイビング。

サッカーチームの面々



不動産部が設立された年から、大学と学生の接点となる学生部長を務めている。サークル活動を側面から支援したり、リーダース研修会や国際交流サマーセッションといった学生の研修や留

今、いちばん気になっているのは留学生のこと。「円高が続き、経済的に厳しい人も多い。浦安には留学生を受け入れてくれる安い部屋が少ないので、寮などの寄宿施設を学校が用意する

だけに、学生の気持ちもよくわかる。ゼミの学生と連れだって飲みに行くし、困つていればお金も貸すという良き兄貴ぶり。

「学生にはもっと元気を出していくね。遠慮せずに

強豪チームと互角に戦いながら弱いチームに取りこぼすことでも昨年度まで多かったサッカーチーム（部員約50人）だが、今年度は例年にない急成長ぶりを見せた。

一昨年、千葉県大学リーグ新人戦（6月）で準優勝

は目標どおり「長い戦い」になつたようだ。

現在、千葉県大学サッカーリーグの1部リーグで公式戦を戦う明海大サッカーチームの最大の目標は関東2部リーグへの昇格。昨年のリーグ戦（全7戦）では5戦目まで全勝で勝ち進んだものの6戦目で宿敵・国際武道大学に破れ入れ替え戦に挑むことができなかつた。

「今年こそは絶対に昇格するんだ、という部

員の意識が強かったです

ね」と、今は現役を退いている白井久三元キャプテン。プレッシャーを感じながら勝ち進むなか、天皇杯関東大会で茨城日立に敗れたこと、緊張の糸が途切れただ。

「目には見えないけど、部員たちに何らかの気持ちの変化があつたんです。それが国際武道大学との試合にも影響した」と白井君。最後まで部員全員の気持ちをひとつにまとめきれなかった

ことを「反省すべき点」と一年振り返っている。

「推薦でこれからますます強い選手が入ってくるでしょう。今の四年生と違い三年生はまとまりがある。

『推奨でこれからますます強い選手が入ってくるでしょう。今の四年生と違い三年生はまとまりがある。

『推荐でこれからますます強い選手が入ってくるでしょう。今の四年生と違い三年生はまとまりがある。

『推荐でこれからますます強い選手が入ってくる



インタビューに答える石原舜介不動産学部長

国家資格取得者がやはり有利

今年度の就職状況――

「超氷河期」と呼ばれた今年度の就職戦線。日本経済の低迷とともに、企業は徹底的に無駄を省き、スリム化することを余儀なくされている。このような社会状況で、企業が新卒を大量に採用することは望めず、しばらくはたいへん厳しい状況が続くと見たほうがいいようだ。大学卒の肩書きだけでは、希望通りの就職ができなくなってきた現状、何を準備し、どう就職活動に臨んだらいいのか。今年の就職状況も交えて就職指導課に聞いてみた。

今の時点(平成7年12月)で就職内定の報告が上がっているのは約4割で、後は状況把握にとめていたところ。確かに今年も内定状況は厳しく、就職活動期間が長期化している。これはどこの大手でも同じで、有名校でも苦戦している学生が少なくない。

そんな中、内定をもらっている学生もいる。そのポイントは「早めに進路を決めておきたい」。流通関係に進みたいなら販売士、不動産関係なら宅建士、企業が客観的に実力を評価できる国家資格を取得していると

「英語力を生かせる仕事に就きたい」と考えるなら、「英米語学科卒」だけではなく、英検準1級以上は取得しておきたい。

本学では、就職活動をしたいのか目標を定め、それに向かって具体的な準備を進める。例えば、英語力を生かせる仕事に就きたいと考へるなら、販売士3級、不動産鑑定士、宅建簿記2級・3級、情報処理など、就職に有利な資格取得のための講座を開講している。また、公務員試験対策、就職試験対策、ビジネススマナーなどの特別講座を開き、就職活動に役立つ。

この会社にターゲットを絞って就職活動をするか、これは大きな問題だ。

元大手の企業に内定を決めている学生が多いため、内定率の高さの理由かもしれない。

また、首都圏での就職が厳しいこともあり、Jターン就職を希望する学生が増えていている。しかし、地方都市には企業数が少なく、地

域研究も必要だ。

元大手の学生と競合して厳しい状況には変わりない。

地元での就職を希望する場合は、就職指導課の資料室に各地域の情報がそろえ

てある。また、職安の学生

コーナーで求人状況を知

ることができるが、夏休みや冬休みなど、郷里に帰ったときが情報収集のチャンス。学生たちへのアドバイスをお願いします。

元大手の学生と競合して厳しい状況には変わりない。

地元での就職を希望する場合は、就職指導課の資料室に各地域の情報がそろえ

てある。また、職安の学生

コーナーで求人状況を知

ことができるが、夏休みや冬休みなど、郷里に帰ったときが情報収集のチャンス。学生たちへのアドバイスをお願いします。

元大手の学生と競合して厳しい状況には変わりない。

地元での就職を希望する場合は、就職指導課の資料室に各地域の情報がそろえ

てある。また、職安の学生

コーナーで求人状況を知

ことができるが、夏休みや冬休みなど、郷里に帰ったときが情報収集のチャンス。学生たちへのアドバイスをお願いします。